



今回のテーマ

低学年からの辞書引き活動の工夫

思考力や表現力を伸ばすためには、言葉や文字の習得が必要だ。進んで言葉や漢字を調べる態度を低学年から身に付けることの意味は大きいだろう。今回は、校長自身が辞書引き活動の実践を重ね、研究につなげようとしている事例を紹介する。

事例

愛知県北名古屋市立師勝北小学校

校長自身が新たな取り組みを発案し、まず実践する

漢字を習い始める1年生から辞書引き活動を実践

北名古屋市立師勝北小学校は2011年10月から、森享校長の発案により、1・2年生の国語の授業や朝のホームルームなどで辞書引き活動を行っている。森校長は、取り組みのねらいを次のように話す。

「疑問に思うことがあったら、すぐに調べる習慣を低学年から付けさせたいと考えました。進んで辞書を引くようになれば、言葉や文字を早く覚えらるようになります、表現力も

伸びると思いました」

1年生は漢字辞典、2年生は国語辞典を用い、調べた漢字や言葉に付せんを貼る。漢字辞典は音訓索引、総画索引、部首索引があるため、引き方が国語辞典よりも複雑だが、あえて1年生に使用することにしました。

「漢字を習い始める学年であり、部首に使われる基本的な漢字を多く学習する1年生にこそ、漢字辞典を引いてほしいと考えました。1年生は他学年に比べて時数に余裕がありますから、引き方もしつかり説明できています」(森校長)

取り組みを始めるに当たり、森校長は活動のねらいや進め方などをプリントにして担任に配布(図1)。更に、校長自らが全てのクラスで辞書引き活動の手本を示し(写真)、辞書引き活動に使う問題プリントも作った(図2)。

「新しい活動ですから、先生方に積極的に取り組んでもらうためには、発案した私が実演する必要があると考えました」(森校長)

辞書引き活動を始めて1年ほど経ち、子どもには変化が表れている。友だち同士で競い合って付せんを増

やすうちに、辞書の面白さを知り、知らない言葉や文字の意味を進んで調べるようになった。担任からは「子どもの語彙が増え、国語以外の教科にも良い影響が出ている」という声が上がっている。教師の意欲も高まり、今年度、森校長が改めて辞書引き活動の模範授業を行った時は、他学年の担任も見学に来た。

「多くの先生が辞書引き活動に興味を持ち、学校全体で行おうという雰囲気生まれつつあります。今後は校内研究として本格的に取り組んでいければと思います」(森校長)

図1 辞書引き活動の進め方 右：1年生用(漢字辞典)、左：2年生用(国語辞典)

漢字辞典については、音訓索引、総画索引、部首索引の順で引き方を説明するよう呼び掛けている。国語辞典については、好きな食べ物や動物といった子どもの興味がありそのような言葉を調べさせるなど、辞書引きを楽しくするための工夫を示している

*同校の資料をそのまま掲載

▶「辞書引き活動の進め方」は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます
<http://benesse.jp/berd/> → 情報誌ライブラリ(小学校向け)

辞書引き学習の進め方(2年「国語辞典」)

- 1 ねらい
 - 国語辞典を最大限に活用して、子ども達が自ら調べ・自ら学ぶ習慣と能力を身に付けさせる。
 - 多くの言葉に慣れ親しむと共に、言葉の使い手としての能力を高める。
- 2 学習の進め方
 - (1) 準備するもの
 - ① 自分の辞書
 - * 国語辞典を身近な所に置く。
 - 調べたくなった時にすぐ調べられるように、手が届く範囲に置く。(辞書のケースに辞書を立て、ロッカーの上に乗せて置いておく)
 - ② 付箋
 - * 最初は何じ物も100枚程度準備して指差。以降は、家庭にお願いする。
 - (2) 指導の手順
 - <第1段階> 辞書に親しみ、辞書引き学習の進め方を理解する。
 - ① 辞書の適切なページを開き、自分の知っている言葉を見つけ、付箋を貼る。
 - ア 付箋を縦長にして、あらかじめ鉛筆で番号を書いておく。
 - イ 辞書のページをめくりながら、知っている言葉を探す。
 - ウ 見つけた言葉の解説を読む。
 - エ 付箋の番号の下に言葉を書き込む。
 - オ 番号と言葉を書いた付箋を、その言葉の出ているページの上部に貼る。(文字を隠さないように注意する)
 - ② 辞書を楽しく見引きする。
 - アラビア語で5～6個の言葉を書き出し、時間を決めて辞書を引きつけて調べる。
 - * 好きな食べ物、好きな動物、好きな花、好きな鳥、……
 - ア 付箋に鉛筆で番号を書いておく。
 - イ プリントやノートに物の名前を5～6個書く。
 - ウ 辞書を見て言葉を探す。
 - エ 見つけた言葉の解説を読む。
 - オ 番号と言葉を書いた付箋を貼る。
 - ③ 調べた言葉の解説から、新たな言葉を見つけ出し、さらに辞書で引く。
 - ア どこでもいので辞書のページを開き、自分の知っている言葉を見つけて解説(説明)を読む。
 - イ 解説(説明)を読んで、その中から次に調べたい言葉を見つけ、その言葉をもとに辞書で調べてみる。
 - * 番号と言葉を書いた付箋を、忘れずに辞書に貼る。

辞書引き学習の進め方(1年「漢字辞典」)

- 1 ねらい
 - 漢字辞典を最大限に活用して、子ども達が自ら調べ・自ら学ぶ習慣と能力を身に付けさせる。
 - 漢字に慣れ親しむ、漢字を讀んだり書いたりする力を高める。
- 2 学習の進め方
 - (1) 準備するもの
 - ① 自分の辞書
 - * 漢字辞典を身近な所に置く。
 - 調べたくなった時にすぐ調べられるように、手が届く範囲に置く。(辞書のケースに辞書を立て、ロッカーの上に乗せて置いておく)
 - ② 付箋
 - * 最初は何じ物も100枚程度準備して指差。以降は、家庭にお願いする。
 - (2) 指導の手順
 - <第1段階> 「総画索引」で辞書を引き、学習の進め方を理解する。
 - ① 読み方が分かっている漢字を「総画索引」で引く。
 - ア 付箋を縦長にして、あらかじめ鉛筆で番号を書いておく。
 - イ 辞書のページをめくりながら、習った漢字を探す。(木、ロ)
 - ウ 漢字を速く探す方法を知る。(音訓索引)
 - * 音訓索引の場所、読み方(カタカナ)と調読み(ひらがな・西りがな)を教える。
 - エ 漢字の載っているページを漢字ドリルと比べ、違いに気付く。
 - オ 付箋の番号の下に漢字を書き、漢字の出ているページの上部に貼る。(文字を隠さないように注意する)
 - ② ③の他の漢字で、読み方の分かっている漢字を音訓索引で引く。
 - よ、水、風、上、下、……
 - * 番号と漢字を書いた付箋を辞書に貼る。
 - <第2段階> 「総画索引」で辞書を引き、辞書の引き方に慣れる。
 - ① 読み方が分からない漢字を「総画索引」で引く。
 - ア 身近な人の名前に使われている漢字(足音の未習のもの)を辞書で探す。
 - イ 読み方が分からない場合の漢字の調べ方に「総画索引」があることを知る。
 - ウ 総画索引の場所を確認して、漢字の探し方を理解する。
 - * 画数の少ない字から順に書いていることを知る。
 - エ 提示した漢字の画数を確認して、総画索引で探す。
 - オ 見つけた漢字の下の数字のページに、漢字が載っていることを確かめる。
 - カ 他の漢字を総画索引で引く。(火、金、土、日、木、水、耳、木、……)

写真 森校長による辞書引き活動の手本



1年生に漢字辞典の引き方を示す森校長。「先生方の模範となるよう、板書の仕方、言葉遣い、子どもとの接し方には特に気を付けています」(森校長)

図2 問題プリント(1年生用)

◇ 漢字辞典を引いてみよう

- 1 自分の名前や家族の名前の漢字を、漢字辞典で引いてみましょう。
- ① 家の人に自分の名前を漢字で書いてもらいましょう。

* 例(おとうさん)

北	男

2 「音訓さくいん」「総画さくいん」「部首さくいん」のどれかを使って、漢字を調べましょう。

* 番号と漢字を書いた付箋を、忘れずに辞書に貼っておきましょう。

辞書引き活動で1年生が使用するプリント。習った漢字だけでなく、身近な漢字にも興味を持てるように工夫して作問している。2年生には国語辞典を引くためのプリントを配布する
 *同校の資料をそのまま掲載

愛知県北名古屋立師勝北小学校



校長 森亨先生
 児童数 498人 学級数 20学級(うち特別支援学級2) 教員数 32人
 所在地 〒481-0006 愛知県北名古屋市熊之庄大畔32
 TEL 0568-22-7338
 URL <http://www.cnt.kitanagoya.ed.jp/shikatsukita-e/>
 公開研究会 未定



北名古屋立師勝北小学校校長
 森亨
 もり・とある
 「私自身の行動によって先生方に範を示し、取り組みに対する先生方の理解を深めていきたい」

授業研究に学校全体で主体的に取り組むために心掛けています